

TNC

通信

2014  
3月号

# 「新春の集い」-大雪踏んで



2月16日、町上会館で今年度の「新春の集い」が行われました。残念ながら残雪の関係で、留学生や遠方者の参加がありませんでしたが、飲茶をいただきながらの懇談が弾みました。持ち寄りの景品が好評のゲームも楽しいひと時でした。なお来賓として町長代理の奥山福祉部長、浅野議会議長、中山県議よりご挨拶をいただきました。(I)

## 残留邦人理解へのシンポジウム開催

気象史上3番目という大雪となった8日、「中国残留邦人等への理解を深めるシンポジウム」(主催・厚生労働省)が太白区文化センターで開かれました。記録写真パネルの展示、演劇「花いちもんめ」の上演、ディスカッション、合唱が行われました。4人のパネラーは支援センターでの研修を受けたものの、日本語の不自由さ、生活習慣の相違、就職の難しさから、大変な苦勞をされてこられた状況や地域の皆さんの協力ががんばっている模様などが語られました。パネリストの岸井成格氏は「高齢化、生きがいの問題もある。同じ日本人として支援を続けていきたい」とまとめました。



## 富谷町で中華圏出身者の “春節” にぎやかに行う

第2回となる県内の華僑・華人でつくる「同舟会」が2日、成田公民館で開催され、約130人が中国の歌や踊り、そして中華料理での飲談、ゲーム等楽しみました。これには富谷町・菅原教育長、当会の水戸会長も招かれ祝辞を述べました。(K)



〈中国残留邦人等〉1945年当時、中国東北地方(旧満州地区)には開拓団など150万人の日本人が居住していた。8月9日、突然のソ連参戦により人々は居住地を追われ、逃避中や収容所で飢餓・伝染病等で死亡者が続出した。その悲惨な混乱の状況下、肉親と離別して孤児となり中国人の養父母に育てられたり、妻となったりして、やむなく中国にとどまった方々、及び一部に樺太に残留されていた方々を含めていう。

今月の  
一冊

「変わる中国—『草の根』の現場を訪ねて」(麻生晴一郎著、潮出版社、1470円)

本書は「潮 アジア・太平洋ノンフィクション賞」の第1回受賞作。こうした賞が設けられたことに敬意を表したい。筆者は東大在学中に中国の格安宿でアルバイト生活を体験し、90年代の大半を過ごした経験を生かしボランティアやNGO、人権問題に関わる人々との人間交流を通して中国社会の生々しい鼓動を伝えている。

大きくは四川大地震から発した「沿岸部と内陸部」、08年～10年、公民社会の台頭を見る10年～12年「規制強化と権利主張」、そして草の根交流の意義を見出す、11年～13年「反日と市民」の3編に分け、よくある中国レポートとは一線を画した“現場の声”が興味深い。「中国で公民社会が台頭してきた大きな背景」を「庶民の権利意識の高まりと、社会や公共への関心」と分析し「それが一方で反日デモを生み出し、他方で暴徒化を批判する」と。著者はルポライターとして現地のメンバーへの取材と交流、依頼されての講演や対話の活動を続けてきた。体制批判者ではない。が現在、入国拒否状態にあり、理由は不明だ。(Y)

## 青年委主催で留学生等と「元宵節」

恒例となった県青年委員会主催の「日中茶話会 元宵節を祝う会」が15日、青葉区の中央市民センターで開催された。仙台ヤンコー踊り、留学生の歌、舞踊が披露された。また美味しお団子も大好評。富谷日中の青年委メンバーが裏方で大活躍。(Y)



## 4月に「植林訪中国」!

吉林省九台生態保護林建設事業として本年が最後となります。一般の旅行と異なり、現地での学生や市民との交流が魅力です。

〈期間〉4月16日(水)～20日(日)

〈代金〉約14万円(全て含む)

〈行程〉仙台駅(朝)-新潟空港-ハルビン観光-長春大学交流等-九台市・歓迎宴、植林活動、家庭訪問等-長春市内観光-ハルビン-新潟-仙台(夕)

〈問い合わせ〉水戸または河北トラベル